

2026年度（第2次）神戸市外国語大学大学院 入学試験

中国語学専攻
解答例・出題意図

問題 I

【解答例】

[Redacted content]

【出題意図】

日本語の文章を適切に中国語訳できるかどうかを測る。

【配点】

40点

中国語学専攻
解答例・出題意図

問題Ⅱ

【解答例】

「四部分類」

前近代中国の漢籍の目録を作成するために発明された図書分類法の一つ。書物を経・史・子・集の四部に分類する。経部は儒教の経書および注釈等であり、言語に関わる辞書類も含む。史部は歴史・地理類に加えて、法令・詔勅・公文書等を含む。子部は諸子百家とその後継者を始めとして、仏教、科学技術、類書など多岐にわたる。集部は、詩賦・白話小説などの文学作品と文芸評論である。現代では叢書部を加えて五部とすることもある。(199字)

「沈從文」

中国近代の作家であり歴史文物の研究家。1920年代中期に創作を開始するが、40年代末には断筆した。著作としては短編小説が200編余り、中長編小説が10編余りある。作品の取材範囲は広く、内容も多岐にわたるが、その中でも、湖南省や貴州省辺境の少数民族の生活を題材とした作品に最も特徴があり、代表的作品として中編小説『辺城』がある。作品中には、中国大陸の20、30年代の種々さまざまな面影と生活様式が著されている。(195字)

「反切系聯法」

清の陳澧が『切韻考』の中で実践した、『広韻』の反切上字から声母の類別を、反切下字から韻母の類別を帰納した技法を指す。これには次の三原則がある：①「同用」“冬：都宗切”と“当：都郎切”から“冬、当、都”が同じ声類だったと判断できる；②「互用」“当：都郎切”と“都：当孤切”から“当、都”は同じ声類だったと判断できる；③「通用」“冬：都宗切”と“都：当孤切”から“冬、当、都”が同じ声類だったと判断できる。(201字)

【出題意図】

中国語学・中国文学・中国文化に対する基礎的知識を有しているか、またそれを適切な日本語で要約して示せるかどうかを測る。

【配点】

1題につき20点

中国語学専攻
解答例・出題意図

問題Ⅲ

【解答例】

[Redacted content]

【出題意図】

現代中国語の文章を適切に日本語訳できるかどうかを測る。

【配点】

40 点

中国語学専攻
解答例・出題意図

問題IV

【解答例】

[Redacted content]

【出題意図】

古典中国語の文章を適切に日本語訳できるかどうかを測る。

【配点】

40点

2026年度（第2次）神戸市外国語大学大学院 入学試験

中国語学専攻
解答例・出題意図

問題V

【解答例】

問1. 太極、理、気、

即問2.



【出題意図】

学術性の高い英文の論旨を把握する読解力を測るとともに、内容を適切に要約し表現する日本語の作文能力を測る。

【配点】

問1 各1点

問2 36点